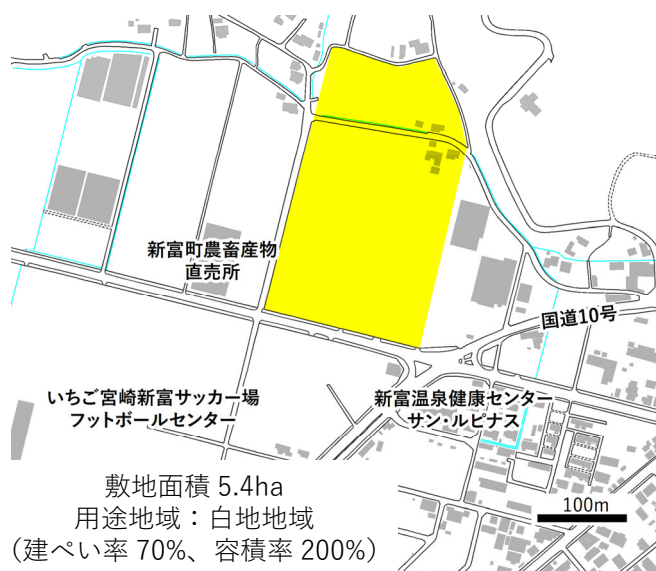


(2)―1:健康交流施設の整備

〔目的〕

本町には温泉健康センターがあり、多くの町民に利用されているが、身体に障がいのある方や心に障がいのある方、皮膚病など外観を気にされる方、様々な理由により温泉に行けない方への対応ができていない。そのため、車いすの方1人でも入浴可能なバリアフリーが徹底されていることや、介助が必要な夫婦、家族でも周りの目を気にせずお互い助け合いながらすべての町民が安心して身体を休めることができるインクルーシブな温泉が求められる。

また、町内にはトレーニングルームやプールを併設した企業社員の福利厚生施設として町民も利用できるスポーツジムがあるが、老朽化が進んでおり今後の計画も現在のところ白紙である。そのため、今後も継続してトレーニングルームやプールなど身体を使った運動ができる施設を整備することにより、町民の運動する機会を創出し、健康寿命の延伸やフレイル対策、医療費の削減等を図ることを目的とする。

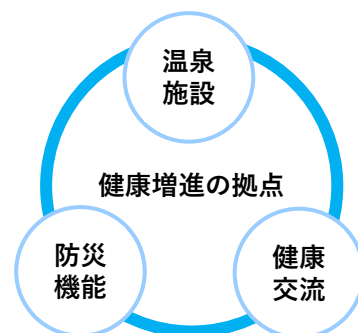


【取組方針】

コンセプト：官民連携、癒しと健康増進の拠点

【基本的な考え方】

現在の温泉施設に加えて、隣接する三納代運動広場等を含めた周辺を一体的に活用し、温泉設備と合わせた健康交流施設の拡充を図るとともに、国道 10 号からのアクセス性向上、駐車場確保、災害時の避難場所としての活用も考慮し、新たな健康拠点施設の整備を目指す。また、昨今の社会ニーズに対応した個別温泉など、周辺施設と連携を図りながら相乗効果をもたらす、健康増進・交流促進に資する施設整備を図り、住民や来訪者が一日を過ごせる拠点形成を目指す。



【取組方針】

みんなが訪れる・・・住民の日常的な利用から来訪者も訪れる施設の整備
みんなが健康になる・・・みんなで楽しみながら健康になる施設の整備
みんなで繋がる・・・周辺施設との連携によって相乗効果をもたらす空間利用
みんなを癒す・・・誰もが安心して利用できるインクルーシブな温泉の整備

[主な導入機能]

- 健康寿命延伸機能
トレーニングルームやプール、ボルダリングなど日常的に体力増進や健康維持運動ができる設備
- 屋外運動機能
グラウンドゴルフや運動会など様々な健康づくりに利用できる多目的広場や周辺をウォーキング等で利用できる設備
- インクルーシブ温泉機能
様々な障がいや、家族環境に配慮したすべての町民が利用できる個別温泉施設
- コワーキング機能
日々の仕事に追われ運動不足の方でも運動の機会を創出するため、運動をしながら必要な時間に仕事ができる設備
- 共用・管理機能
健診（検診）や健康体操、健康に関する研修などが実施できる様々な規模の会議室やロッカールーム、事務室等の設備

(2)ー2:駅前ガーデンストリート整備

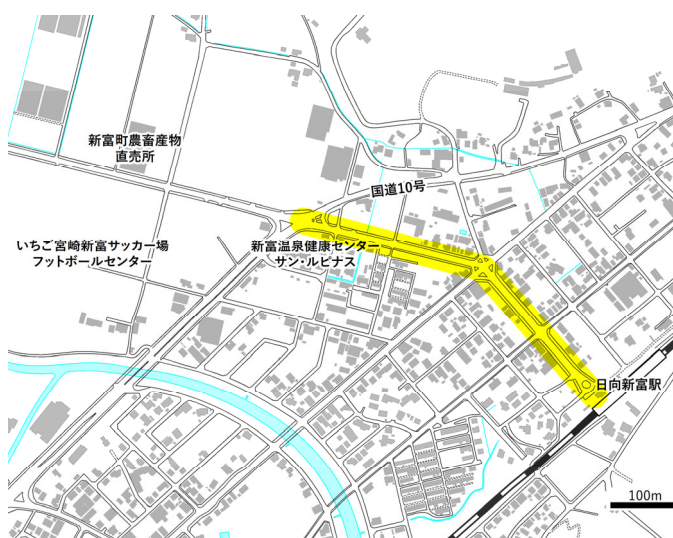
〔目的〕

日向新富駅は令和 7 年度中に IC カード導入、及びホームのバリアフリー化が予定されており、同事業と連携して町の玄関としての機能を高める。

日向新富駅からサッカー場までの広い歩道空間を活用し、町の玄関口として通りの演出を行う。

歩道空間や緑地空間などでの植栽やサイン整備などにより、日常的に駅を利用する住民への安らぎの演出、来訪者向けの情報発信の強化を図る。

沿道の植栽には、地元企業や住民参加による持続可能な取組として実施を検討し、季節の移ろいや南国宮崎を感じられる特徴的な通りとして演出を目指す。



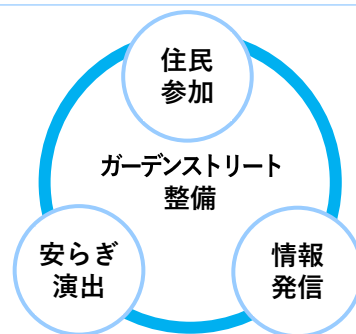
【取組方針】

コンセプト：地元企業・住民参加、ガーデンストリート整備

【基本的な考え方】

駅前シンボルロードとして、歩道空間で通行機能を維持した上で、地元参加による季節の花々を植栽することによりまちづくりへの参画、シビックプライドの醸成を図る。

また、街なかでのサイン整備の一環として、サインマニュアルを策定した上で、来訪者向けの歩行者サインの整備、情報発信の強化を目指す。



【取組方針】

みんなで参加する・・・地元企業や住民参加によるシンボルロードを整備

みんなで育てる・・・持続的な活動として位置づけ、季節や年月の移り変わりを演出する

みんなで考える・・・町内の通り名や活動内容など参加者で考えて事業を実施する

みんなで広げる・・・道路空間に限らず、玄関先や軒先などの民地での活動へ広げる

【主な取組】

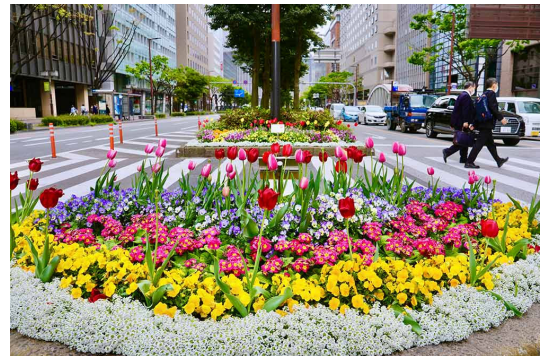
- 通り名設定
駅前のシンボル道路の通称名を地域で決定する
- 歩道植栽
歩道の一部を活用し、季節の花々の植栽を行う
- 日常的な維持管理
日常的な清掃や水やり、枯れた草花の撤去など協力して行う
- 民地の演出
玄関先や駐車場など、民地内でも協力できることを考えて自主的に実施

参考事例

〔一人一花運動：福岡市ホームページより〕

■概要

- 福岡市では、市民・企業・行政一人ひとりが、公園や歩道、会社、自宅など、市内のありとあらゆる場所での花づくりを通じて、人のつながりや心を豊かにし、まちの魅力や価値を高める、花によるまちづくりを目指す『一人一花運動』に取り組んでいる。
- 取組を推進するために市では専用ホームページを開設しているほか、個人向けや企業向けへのリーフレットや Q&A による周知の徹底を図っている。



個人向けの取組紹介リーフレットでは、それぞれに向いている活動内容などを紹介

〔小平グリーンロード&オープンガーデン：小平市ホームページより〕

■概要

- 小平市では「狭山・境緑道」「野火止用水」「玉川上水」と都立小金井公園を結ぶ、小平市を一周する水と緑の散歩道を「小平グリーンロード」として位置付け景観整備を進めている。
- また、近隣住民は、個人の庭を一般に公開するオープンガーデンを実施している。丹精こめた庭や花壇を開放し、訪れた人が季節の植物を楽しみ、交流を深め、自然とうるおいのある街となることを目指している。



こだいら観光まちづくり協会ではガーデンマップ(日本語、英語、中国語、韓国語)を配布

(3) レクリエーションゾーン

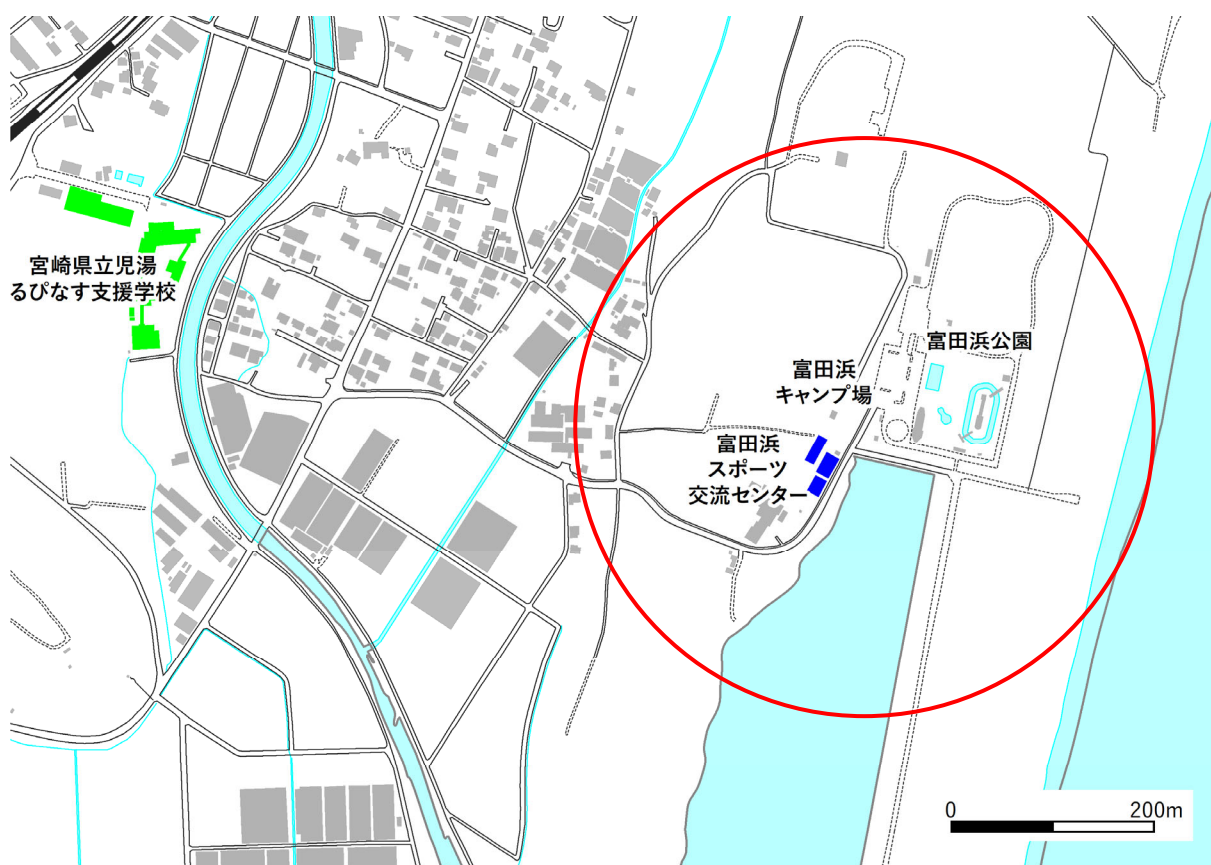
[対象地の概況]

- ・ ゾーン内には、緑の松林に囲まれた富田浜入江に隣接し、キャンプ場や多目的広場、富田浜入江を利用した漕艇場や研修施設など、住民の憩いの広場として幅広く活用されている富田浜公園が立地している。
- ・ 富田浜公園は、2027年宮崎国スポでサッカー競技場として活用や、防災公園や駐車場整備などの事業が予定されており、全体的な事業推進が図られている。



[ゾーン内の主な公共施設]

施設名称	機能	建築年度	延床面積
富田浜公園	都市公園	1979年	1,285 m ²
富田浜スポーツ交流センター	研修室、宿泊施設、食堂	2015年	380 m ²
富田浜キャンプ場	キャンプ場	1983年	27 m ²



レクリエーションゾーンでは、公園施設全体のリニューアルに向けた整備を対象とする。

(3)ー1:富田浜公園リニューアル

【目的】

富田浜公園の多目的広場周囲に遊歩道が整備され、町民がウォーキングやジョギング等で利用しているが、2027年宮崎国民スポーツ開催に合わせ多目的広場がサッカー競技場として再整備されることになり遊歩道が無くなることから、隣にある保安林等を活用した林間遊歩道を整備し、日ごろからウォーキングやジョギング等を行うことで、町民の健康寿命の延伸やフレイル対策、医療費の削減等を図ることを目的とする。



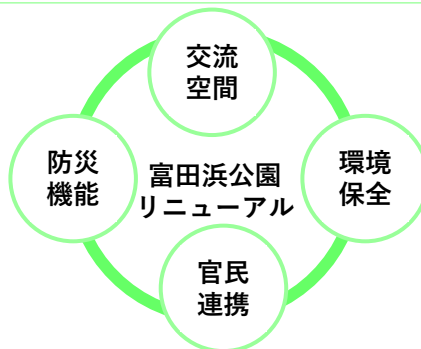
【取組方針】

コンセプト：官民連携、Park-PFI による公園リニューアル

【基本的な考え方】

富田浜公園一帯に求められる多様なスポーツ・レクリエーション・環境学習に対応する機能に加えて、貴重な水辺・緑・生物生息環境の保全、災害時に人々の安全を守る防災機能を有する公園としてリニューアルを目指す。

また、公園リニューアルにあたっては、にぎわい創出を目的として民間活力を導入するための制度「Park-PFI」の活用を視野に検討を進める。



【取組方針】

みんながいつでも・・・日常的にいつでも利用できる空間の整備

みんなが健康・・・屋外で健康の維持・増進のために行う施設の整備

みんなが安らぐ・・・自然の中で心身を休める空間の整備

みんなが安心・・・津波避難場所を活用した施設整備

〔主な導入機能〕

●屋外運動機能

自然の形状を利用したウォーキング・ジョギングコース

●健康維持増進機能

屋外で利用可能な健康器具等の設備

●夜間運動機能

夜間でも利用可能な外灯設備

参考事例

[常総運動公園/ JOSO SPORTS PARK]: 守谷市ホームページより]

■概要

- ・ 茨城県守谷市の「常総運動公園」は、昭和 47 年に都市計画決定された約 17ha の運動公園で、敷地面積 18ha と市最大の公園である。
- ・ 2022 年 4 月より指定管理制度と Park-PFI 併用事業が順次開業「JOSO SPORTS PARK」として、リニューアルが進められている。
- ・ 公園内には体育館、屋内プール、テニスコート、広場、野球場、児童あそび場のほか、長年地域に親しまれてきた流れるプールはコミュニティガーデンとして、DOG PARK RUN and POOL やキャンプフィールドとして生まれ変わっている。



長年利用されてきたプールはドッグパークで夏場は犬専用のプールとして活用されている

[ABU キャンプフィールド: ABU キャンプフィールドホームページより]

■概要

- ・ 山口県阿武町は人口わずか約3,000人の町。恵まれた森里海的环境を楽しむ拠点として、町の中心部に位置する道の駅の隣、日本海に面した場所にキャンプ場を開設した。
- ・ ABU キャンプフィールドは、スノーピーク地方創生コンサルティング監修のもと、自然が本来持つ豊かさやそれに関わることの心地よさを体感できる施設となっており、阿武町ではキャンプ場を「まちの縁側」と位置付けている。
- ・ ABU キャンプフィールドは、キャンプを楽しむ場だが、町内の棚田での田植え体験や全国でも希少な無角和牛の牧場見学など、地域の自然に関わるなりわいを体験コンテンツとし提供している。特に夏の「一日海士体験」は近隣の漁業者と協力し、利用者が海岸に潜ってサザエを探ることができるプログラムとして、人気が高い。
- ・ また、町内林業者が伐りだした薪販売や、有機農家の採れたて野菜を購入することができる。



温泉棟 1 階にある水着着用で楽しむ往復 100m の歩行湯